

2004.4.17

第1回自己点検・評価部会議事録

- ・日時：2004.4.16（金） 15:00～14:30
- ・場所：八王子・メディアルーム、上野毛・メディアセンター会議室
- ・参加者：出席者
 - 八王子 / 森下清子（部会長）、室越健美（油画）、渡辺達正（版画）、竹田光幸（彫刻）、伊藤孚（工芸）、中島祥文（代理田口敦子・グラフィック）、岩倉信弥（プロダクト）、皆川魔鬼子（代理山口勇治・テキスタイル）、田淵諭（環境デザイン）、須永剛司（情報デザイン）、海老塚耕一（芸術）、近藤秀實（共通教育）、荒川直（教務事務部長）、甲斐重守（八王子総務課長）、筒井一憲（図書館事務課長）、野澤敏之（MC室長）、田村勇二（学務課長）、畔上洋一（就職課長）、河島吉成（教務・事務担当）、渡邊由美（教務・事務担当）、伊藤多恵（学生・事務担当）、米山秀樹（教務・事務担当）、石井渉（総務・事務担当）
 - 上野毛 / 北條正庸（造形）、猪股裕一（デザイン）、福島勝則（代理大平勝弘・映像演劇）、中村隆夫（共通教育）、柿本静志（総務部長）、中島和彦（経理次長）、恩蔵昇（総務課長）、田中誠二（造形事務課長）、渡邊美紀子（生涯学習）、伊藤憲夫（企画広報次長）
- 欠席者
 - 清田義英（美術学部）、米倉守（造形表現学部長）、中野嘉之（学生部長）、市川保道（日本画）、川崎勇（学生事務部長）、植村博（学生次長）、渡邊清光（施設整備室長）、仙仁司（美術館室長）、杉本功（総務・事務担当）、米山建吉（企画広報・事務担当）
- ・議事概要
 - 自己点検・評価「多摩美術大学 2000-2003」について、森下部会長より趣旨、作業手順の説明を行い、不明点について質疑応答を行った。
 - また部会メンバーを各作業グループに割り振りを行うにあたって、所属の希望をとり、所属希望の無い者については部会長に一任された。
 - 確認事項等は、以下のとおり。
- ・確認事項
 - 今回の自己点検・評価作業については、それぞれ現状把握を基本とする。
 - 良い点、悪い点の現状把握を通して、何らかの改善につながることを足元から発見することを基本的なスタンスとする。
- ・意見等
 - 自己点検・評価作業を行うにあたって、大学の掲げるビジョンをチャートなど

で示して欲しい。大学の掲げるビジョンは明示する。但し、現状は大学のビジョンが全ての人に共有され、それに基づいて事業が行われ、その結果を検証するというような段階に無い。現状把握というやれるところから始め、一歩づつ段階を踏んで行きたいので、その点理解頂きたい。(部会長、総務部長)

文科省が進める第三者評価の基準によってのみ現状把握を行うべきでは無いと思う。大学が自分達のやり方で、良いところ、悪いところも現状把握をしていくべきではないか。資料のフォーマットはあくまでもタタキ台なので、どのような項目について現状把握をして行くのか、作業グループで検討して頂くことになる。(部会長)

外部による評価と言っても、美術大学の特殊性など理解して頂かないと難しいと思う。教育は目に見えて、というものでない部分もあるだろう。

厳格な外部による評価という段階にはまだ無いかも知れない。また教育は生き物なので、簡単に評価するというのは難しいだろう。ただ、本学は一般に高い評価を得ているので、その教育の足跡を残す必要は感じている。

作業グループにすぐに分けられると、他の作業グループの状況も分からない。また、相互に連絡が取れた方が、有効な視点が得られると思う。作業グループに別れる前に、複数の作業グループでフリートークの形でグループ会議を開く予定だ。そのやり取りで、単独の作業グループで発見できない視点などを発見して頂き、各作業グループに分かれて行くことを考えている。(部会長)

会議を開く目安を教えて欲しい。

・決定事項

作業部会のメンバー割り振りを行った(持ち帰り検討)。

各作業グループでグループ長を決定しておくこと。

作業フォーマットのタタキ台を企画グループで作成したら、各作業グループごとに項目の検討を行う。

各作業グループからフォーマットの検討案が出た時点で部会を開き、相互のレベルなどをすり合わせる。

連絡はメールで行うので、大学のアドレスで連絡がつくようにしておくこと。

以 上